

次世代ヘルスケアとヘルスツーリズム —宿泊型新保健指導試行事業における観光アクティビティ実施状況—

○高屋 優、荒川 雅志[琉球大学大学院観光科学研究科]、津下 一代、村本 あき子[あいち健康の森健康科学総合センター]、矢部 大介[関西電力病院糖尿病代謝内分泌センター]、小熊 祐子[慶應義塾大学スポーツ医学研究センター]、佐野 喜子[神奈川県立保健福祉大学大学院]、樺山 舞[大阪大学大学院医学系研究科]、八谷 寛[藤田保健衛生大学医学部]

キーワード：宿泊型新保健指導、次世代ヘルスケア、ヘルスツーリズム

日本再興戦略では、民間事業者等が創意工夫を発揮できる市場環境の整備をし、医・農商工連携など地域資源を活用したヘルスケア産業の育成を図ることを目指すなか、具体的施策のひとつとして糖尿病予備群を対象にホテル、旅館などの地域観光資源等を活用する宿泊型新保健指導プログラムの普及促進が提案されている。本研究では、平成27年度宿泊型新保健指導試行事業に採択された23団体・コンソーシアムにおいて、それぞれの地域資源を活かした保健指導を開発するなかでの観光アクティビティの実施状況を整理した。従来交わることの少なかった医療機関、保健事業者と観光関連事業者の多業種、多職種連携を促進する本試行事業は、ニューツーリズムとして現代に再登場を果たしたヘルスツーリズムの枠組みに少なからず影響を与えている。現地ヒアリング調査を実施したうえで、全国での取り組みについて観光分野の視点から考察する。

本研究は、平成27年度循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業「生活習慣病予防のための宿泊を伴う効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究（代表 津下一代）」の一環で実施するものである。

少子高齢社会のコミュニティづくり ～地域連携における大学の役割～ 須賀由紀子 [実践女子大学]

キーワード：少子高齢社会 コミュニティ 三世代交流 地域連携

少子高齢社会の到来を受け、地域における安全安心なまちづくり、健康で生きがいある暮らしづくりの支援をいかに果たすかは、大きな課題である。インターネットで、時空を超えていろいろな情報を入手できる現代であるが、いざという時に必要なのは、生身の人と人とがつながりあう地域コミュニティである。しかしながら、その中核を担う自治会・町内会は、加入率の低迷、活動の停滞、硬直した組織運営、担い手の高齢化などの問題を抱え、地域コミュニティづくりの機能を果たしているとはいえない。

この問題に対して、持続可能なサード・プレイスの存在となる地域場の場づくりに、学生を動機づけていく授業展開を行った。地域の子どもと親世代・高齢者層の三世代をレジャーでつなぐ役割に学生のアイデアと企画力を活かし、地域の人たちが集いたくなる自治会主体の地区センターの企画提案につなげた。授業を通して、少子高齢社会と地域づくりの課題に対する学生の問題意識が高まると同時に、学生の企画力や協働する力を高める効果が認められた。本授業運営の実際、学生による企画提案の内容、授業成果などの検討を通して、少子高齢社会のコミュニティづくりに寄与する大学の役割を考察する。